

松村圭一郎
最新刊

人類学者のレンズ

「危機」の時代を読み解く

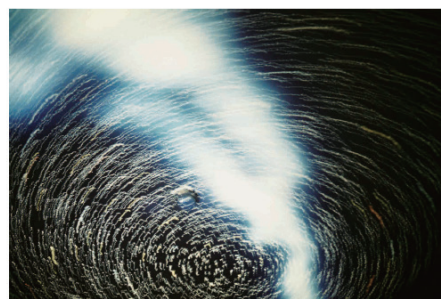
当たり前前の日常が、
視点を変えると全く別の世界になる—
気鋭の人類学者による、
世界の見方を変える「手引き」書

「うしろめたさの人類学」などで知られる筆者は、コロナ禍やオリンピック、地震、水害、戦争などの社会、時事問題が噴出する「現在」に立脚しつつ、人類学の先行研究、原点であるエチオピアの人類学調査、古里の熊本での思い出をたどっていく。人類学者のさまざまな眼を通じて、「危機」の時代を読み解き、揺れる「今」を生きるヒントを考える。

レヴィ=ストロース、ルース・ベネディクト、デヴィッド・グレーバー、ティム・インゴルド、岩田慶治、猪瀬浩平、磯野真穂など、国内外の人類学者の論考が登場。人類学という学問と現実をつないでいく試み。

西日本新聞連載時と同様に福岡出身の写真家、喜多村みかとコラボ。ポートレートでありながら、抽象性を合わせ持つ喜多村の写真は、文章の余白や解釈の幅を広げる。

人類学者のレンズ



松村圭一郎

「危機」の時代を読み解く

写真:喜多村みか

世界の見方を変える「手引き」

コロナ、自然災害、戦争、社会運動のうねり…
人類学者の眼を通して「現在」を考える

西日本新聞、朝日新聞連載を書籍化

西日本新聞社

【初出】

西日本新聞(2020～2022年)

「人類学者のレンズ」

朝日新聞(2018年)

「松村圭一郎のフィールド手帳」

松村圭一郎(まつむら・けいいちろう)

1975年、熊本市生まれ。岡山大学文学部准教授。専門は文化人類学。所有と分配、市場と国家の関係などについて研究。著書に『うしろめたさの人類学』『くらしのアナキズム』『小さき者たちの』(いずれもミシマ社)、『旋回する人類学』(講談社)、『これからの大学』(春秋社)など。

喜多村みか(きたむら・みか)

1982年、福岡県糸島市生まれ。写真集に『TOPOS』(sign and room)、『Einmal ist Keinmal』(Therme Books)。受賞歴にVOCA展2019大原美術館賞、キヤノン写真新世紀優秀賞など。

ご注文はこちら

FAX 092-711-8120

配本はありません(注文出荷のみ・返品フリー)。

4月5日(金)までのご注文分は、4月15日(月)に搬入いたします。

新刊
(注文)

人類学者のレンズ

「危機」の時代を読み解く

ISBN 978-4-8167-1014-8 C0095

四六判・並製・208頁/本体1,600円+税

著者 松村圭一郎

(岡山大学准教授)

写真 喜多村みか

ご注文数

番線印

冊 ご担当者名 ()

取引コード: 6168 (日販・トーハン・楽天BN・きんぶん図書・地方小)

西日本新聞社出版チーム(営業管理部内) 810-8721 福岡市中央区天神1-4-1 ☎ 092-711-5523